

# みんなの居場所

## 頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。  
小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和7年4月28日(月)

### リスクへの備え

年度初めには避難訓練が行われます。火災、地震、不審者対応…色々な種類がありますが、目的は一つ、子どもたちの命を守ることです。ここで、思い出し、頂きたい事件があります。大阪府の小学校で起きた痛ましい事件です。この事件で「学校が安全な場所」という神話は崩れました。犯人は簡単に学校に侵入し、多くの尊い命を奪いました。衝撃的な事件であり、全国の学校が学校安全について改めて考え直し、対策を講じるきっかけとなった事件でした。

さて、府本小学校の環境を見直してみよう。…外部から簡単に学校内、校舎内に侵入できる状況にあります。事件や事故が起こる可能性はゼロではないということです。では事件や事故が起こらないようにするためにどうすればよいのか？私の考えはこうです。安全な状態に慣れさせ、子どもも我々教師も事件や事故が起こるかもしれないという危機感を持ち生活することが大切だと思います。

リスクへの備えとは個人が持つ「危機感」なのです。

### 勉強方法を更にも考えてみた②

前回の「みんなの居場所」でも、幾つかの学びの方法について紹介したところでした。他にも勉強の方法がないかなと考えてみました。

#### ◎各種「コンテンツ」の利用

小学校の頃の夏休み、ラジオ体操、朝食、洗面等が終わって時刻は午前8時頃でした。当時の1日の計画は「9時から勉強」なんて書いていたから、1時間は自由時間です。マンガを読んだりテレビを見たりしていたのですが、NHK教育(今のEテレ)って、子どもが好きな番組を結構やっていて、それを見ることが多かったですね。8時台はまだ子ども向けの「コンテンツ」はあっていませんでしたが、午前の時から午後3時頃までは小学生向けの学習番組が多かったように思います。これは見ているだけで結構学習しているもので、主体的「見よう」とするよりも更に成果が上がっていました。何を言いたいかというと、テレビに限らず、教育「コンテンツ」は至る所に氾濫しており、学びたいという気持ち(主体性)さえあればいつでも学習ができるというところなのです。テレビの番組表は、月曜日の新聞に1週間分掲載されています。自主学習がはかばかしくありませぬから、教育「コンテンツ」を有効活用した方が楽しく学習できそうですね。ちなみに、私が番組表でチェックしていたのは「高学年の理科」「高学年の社会」「朗読」等でした。

#### ⑦朗読の勧め

読書の重要性について、更に突っ込んだ読書について考えてみたい。読書の方法は基本的「自由で、楽しく読む」ことが何よりも大事だと思います。とはいえ、知識を蓄えたりスキルを高めたりするのが目的なら、その読み方も考える必要があります。私がやっている読書スタイルは「朗読」です。文字通りの「読む朗読」で、関連性も無いようなあんなあんなジャンルの本を、とにかく読み漁るのです。私は小学生の頃は伝記やファンタジー、中学では小説、高校ではエッセイ等の本を中心に読んでいました。基本的「一度面白く思った作者やジャンルの本を、定期朗読が続けていました。はっきりと意識して「朗読」するようになったのは大学に入ってからでした。「なんとなく題名に引かれた」「表紙のデザインがなんか好き」「紙の質がなんか良い」とか、そんな理由で、直感で選んでいくのです。そして、理解できなかったり、面白くなかったりしたら、さっさと読むのをやめます。そして新しい本へと移っていくのです。これによって得られたのは、第一に、幅広い知識と視点でした。様々な分野の知識を持っていることで、仕事に活かせる可能性が広がるし、出ている「AI」の教養が増えます。

世の中には無数の本が溢れていて、毎年数え切れないほど新しい本が出版されています。何かを知りたいと思ったとき、つまり思い当たるとき、図書館や本屋に行けば本当に求めている本が簡単に出てくることが出来ます。子どもたちには、是非とも今のうちに「朗読」についてほしいものです。

### シリーズ「自分を語る」#6

「おじちゃんの家まで送るから車に乗るな」と。

見知らぬ人(人)に声を掛けられ、その人の車に乗ってしまう澤田兄弟でした。「いかにあるか」で、当時の私がそんな言葉を知る由もありません。何となくも年齢が歳ですから、周りの大人を疑うことも全くできません。大人は優しく、子どもを助けてくれる人達にたからね。今でもそれは変わらないと思いますが、最近はずっと変わった人にもいますから…。

さて、そのおじさんの車に乗るんだ松達兄弟は、中でおじさんに話しかけられます。

お：おじさんまでの道分かります。「澤：「わかる。」

お：「じゃあ教えてね。」 澤：「いいえ。」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

お：「……」 澤：「……」

人(人)の家まで勝手に教えるという3歳の澤田でした。その友達の家も不在で、八方塞がりかと諦めていると、近所のおじちゃんが出てきて「言いました。」「おじちゃん(人)はフルに行った。」「当時、フルという一か所しかありませんでしたので、そこに連れられて行きました。おじさん大変だったと思います。見ず知らずの幼い兄弟に引き張られるわけ……。(つづく)